

2013. 1. 11

2013年新年賀詞交歓会／挨拶

JABM 会長 芳賀 美次

会員の皆様、改めまして 明けましておめでとうございます。

本日は、日本ボンド磁性材料協会の賀詞交歓会にご出席いただき、ありがとうございます。日頃より会員の皆様のご支援とご協力のお陰で、協会運営も大略スムーズに行われていると思っております。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

また先程は、「新春公開セミナー」でご講演いただきましたが、講師の皆様におかれましては、大変有益なお話、ありがとうございました。

それでは恒例になりましたが、年頭に当たりまして、一言協会の活動状況と当協会が集計致しました、2012年度のボンド磁石の生産推定を簡単にご報告致します。

まず協会の活動状況であります。活動の基本は、2012年度も「会員の皆様にお役に立つ協会」をコンセプトにして活動して参りました。

主な活動を5項目申し上げますが、各担当者の頑張り、2012年度もそれぞれの事業が着実に成長していると思っております。

① 講演会 : 技術委員会と企画委員会がそれぞれ担当する講演会は、年4回行い、磁性材料とその応用製品に関する最新技術情報を第一線でご活躍の方々にお願ひし行って参りました。この4回の講演会に参加された方々は350名でありました。

② 軟磁性材料研究会 : 「軟磁性材料研究会」の発足は、2012年度の活動の「目玉」として上げておりましたが、参加者約30名で活動を開始しました。

研究会のまとめ役を元日立金属(株)の山内清隆さんを主査として、この会をリードしていただくことにしました。この研究会の発足によって、お陰様で法人会員と個人会員数併せて11会員にご入会いただきました。

③ 教育活動 : 磁性材料の基礎を勉強する「寺子屋BM塾」は、昨年も浜野塾長の企画と技術委員の協力で硬磁性と軟磁性の勉強会を年6回行いました。

昨年の参加者は、延べ253名でありました。

塾を始めてから6年目になりますが、この間延べ約1550名の塾生に勉強していただきました。会場は、(株)東陽テクニカさんより無償で貸与していただいております。

④ 機関誌発行 : 機関誌のBM NEWSは、一昨年カラ印刷にしましたが、お陰様で今のところ大変良い評判をいただいております。

⑤ ボンド磁石生産出荷統計の集計 : ボンド磁石の集計は、ますます情報が得にくい状況の中で、企画委員会が大変苦労しながら、頑張ってお集計しております。

以上が事業活動の概略であります。

【2012年のボンド磁石生産推定】の報告

まず、2012年の日本国内におけるボンド磁石の生産は、希土類系では異方性磁石の成長が見られ、増加傾向にあるものの、フェライト系リジッドボンド磁石がマグロール不振により減少傾向にあった。その結果、国内生産のフェライト系と希土類系の合計量は、2011年の10100トンから、2012年は9300トン、92%へ減少したものと見られる。

また、日系メーカーの海外生産は、前年比90~97%と減少傾向にあるが、これは円高が海外生産圧力となったものの、それ以上にEU金融不安、タイの洪水の影響残、中国の反日騒動などの影響を複合的に受けたことも原因になっていると判断した。

なお、希土類原料の価格が下がってきたとはいえ、まだ安定していないため、2012年の希土類ボンド磁石の生産推定も、重量のみの報告とする。

次にボンド磁石の分野別の生産は、以下の様になります。

1. フェライト系フレキシブルボンド磁石

国内の生産量は、2011年の2600トンよりやや減少気味で、2500トン（前年比96%）と推定した。これは技術的に耐熱性や高磁力など高特性品の開発が進んでいるものの、汎用品の減少を受けて差し引きやや減少したものと見ている。

日系メーカーの海外生産は、8%程度の減産と推定した。上述のEU不況などのグローバル視野での減少要因の影響と判断した。

2. フェライト系リジッドボンド磁石

2011年の国内生産はプリンター用マグロールが第3Q後半から減産となり、6800トンと推定したが、2012年の国内生産はさらに減産が続き6000トン（前年比88%）と推定する。

また、日系海外メーカーの生産も10%程度の減産と推定した。これもEU不況とタイの洪水の影響が長引く等の複合的影響が出ていると見ている。

また、希土類高騰の影響でフェライトリジッドボンドへの移行も検討されているが、実績にはまだ反映されていないと見る。

3. 希土類ボンド磁石

2011年の国内生産量は700トン（前年比117%）と推定したが、2012年の国内生産は、異方性磁石の進展が見られ、800トン（114%）と推定される。この増加は、OA分野、車載用途につながっていると見る。

また、日系メーカーの海外生産は、磁石特性のレベル向上の流れは増量圧力としてあるものの、レアアースの高騰、記録メディアの変化を受けたHDDやODD用途の減少に、上述EU不況などのグローバル視野での減少要因も重なり、3200トン、前年比97%の減産になったと判断する。

以上で生産推定値の報告を終わりますが、今回の集計は、中間報告であります。協会の最終報告は、4月のBM NEWSで発表しますのでご覧いただきたい。

最後になりますが、2013年の干支（えと）は巳／蛇です。蛇は皆さんが、ご存じのように、年に数回脱皮します。成長期にはその回数がさらに多いそうです。脱皮を繰り返しながら成長していくということです。フリードリヒ・ニーチエの言葉に、「脱皮できない蛇は滅びる」とあります。

日本ボンド磁性材料協会も滅びないように、「沢山の人が集い、沢山の最新技術情報が集まり、そして信頼できる情報を発信できる磁性関連のプラットフォーム」を目指して、2013年度も「脱皮しながら」成長していきたいと思えます。皆様の相変わらぬご支援をお願い申し上げます。

以上大変長くなりましたが、今年は、会員の皆様におかれましても、「脱皮」しながら、新たな発展の年になることを祈念し、かつ素晴らしい一年となることを祈って、私の年頭の挨拶とさせていただきます。本年もよろしく申し上げます。ご静聴ありがとうございました。